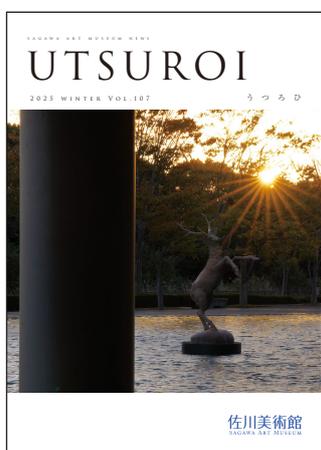
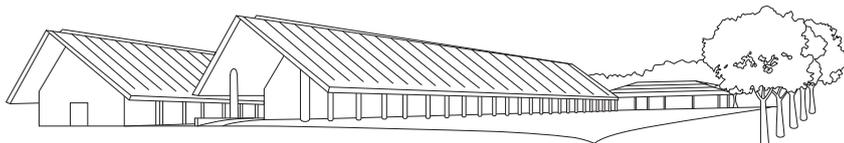


うつろひ VOL.107

リリースのおしらせ



佐川美術館友の会会員の方を対象に
年4回季刊誌を発行しており、
展覧会のみどころや耳より情報をお知らせしています。
1/1発行の107号では、
『つくる展』『わけあって絶滅しました。展』を特集。
耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

目次

みんなで楽しもうワクワク展覧会	1-2
コレクション展 佐藤忠良 まとう彫刻	3
コレクション展 樂直入 創造の美	4
コレクション展 平山郁夫 玄奘三蔵の足跡を訪ねて	PICK UP 5
ART up	6
教えてセンパイ！/周辺おすすめグルメ	7
深#建築LABO	PICK UP 8
フジさんが行く！SHIGART	9
【告知】こども絵画コンクール優秀作品展	10
美術館を支えるヒト/アンケート	裏表紙

次のページで
ちょっとだけ紹介！

年会費 3,000円
でオトク！

友の会会員
募集中



詳しくは
コチラ

友の会会員の方には、季刊誌を
ご自宅までお届けします。
その他にも特典がいろいろ！
詳しくは美術館公式HP内、
友の会ページをご覧ください。

Join the Friends
of the Museum

悠久の旅路

平山郁夫と中国唐代の僧侶・玄奘との関わりは、『**仏教伝来**』（1959年 佐久市立近代美術館蔵）で玄奘をモデルに描いたことから始まります。これより**仏教を画題とした作品に取り組み始めた平山は、次第に仏教東漸の道・シルクロードへの憧憬を募らせ、取材の旅に赴くようになります。今号では、長年にわたる玄奘の追体験の旅を経て、集大成となる『**大唐西域画**』の中より、第1場面と第7場面を取り上げご紹介いたします。**

Pick up

「大唐西域壁画」と「大唐西域画」

NO IMAGE

著作権保護のため、
画像を非表示にしています

画像提供：平山郁夫シルクロード美術館

1976年に平山は、薬師寺の高田好胤管主（当時）の依頼を受け、20年以上の年月をかけて「大唐西域壁画」を描きました。自身も施主の1人となり、制作費用を他所から得た画料で賄った全7場面13画面の大作は、玄奘の**求法の旅路（長安↓天竺）**を移り変わる一日の時の流れに沿って描いています。高さ2.2m、横幅3.3mの大画面の制作には、2年がかりで製作された特注の越前和紙が用いられ、完成時重量は40kg以上に達していたといえます。壁画は世紀の変わる2000年12月31日、薬師寺に新しく造営された玄奘三蔵院に奉納され、完成を迎えます。壁画完成から7年後、サイズを50号に縮小して描いた作品が当館所蔵の「大唐西域画」です。

NO IMAGE

著作権保護のため、
画像を非表示にしています

《明け行く長安大雁塔 中国》2007年

出発の地

朝日を背にした塔は、玄奘の旅の出発地・長安の大慈恩寺境内にある大雁塔です。この塔の建立には玄奘自身も携わったと伝えられ、天竺より持ち帰った経典や仏像が保管されました。平山は、玄奘の旅に対する意気込みや前途の明るさを象徴するものとして、朝日に照らされた塔を描きました。

国外出国が違法な中、
仏典を求めて
長安を出立



砂漠で水袋を落とし、
5日間さまよう



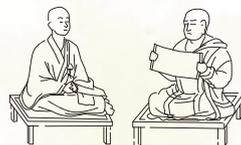
高昌国に
招かれる

パーミアン石窟で
大仏を見て
感動する



盗賊に襲われて
身ぐるみ剥がされる

天竺へ到着
各地の法師に謁見し、
問答する



万感の思い

ナーランダで
勉学に励み、5年過ごす

NO IMAGE

著作権保護のため、
画像を非表示にしています

《ナーランダの月 インド》2007年

玄奘の旅の目的地ナーランダに今も残る寺院遺跡が描かれています。満月に照らされた大塔が幻想的に描かれ、最盛期には1万人もの学僧が修行していたという往時の繁栄が偲ばれます。本連作の中では唯一、人物が臍げに描き込まれています。下図の段階では描かれていなかったこの人物については平山は、玄奘と故・高田好胤師を思い、ダブルイメージで描いたといえます。

深井建築 LABO

第7回

本館の屋根 編

早速ですが、ここでクイズです

Q 本館の屋根は、何と呼ばれる形状の屋根でしょうか？

A 切妻造きりづまづくり

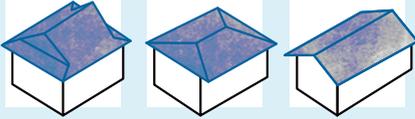
本を開いて伏せたような形の屋根は「切妻造」と呼ばれています。雨が多い日本の家屋でよく用いられる屋根には切妻造・寄棟造・入母屋造の3つがありますが、いずれも雨が流れ落ちやすいのが特徴です。

日本建築でよく用いられる屋根3種

① 切妻造
屋根の勾配面が2つあるシンプルな形状。屋根裏が広くなるため通気性がよく雨漏りに強いのが特徴。

② 寄棟造
4方向に勾配があるどっしりとした形状。面が4つになるため耐風性に優れているのが特徴。

③ 入母屋造
切妻と寄棟を合わせたような形状。切妻と寄棟の長所を併せ持ち、通気性・耐風性を兼ね備えている。



どうして切妻造なの？



画家・平山郁夫、彫刻家・佐藤忠良という当時の日本を代表する芸術家の作品を常設展示する美術館として計画された本館は、日本美術を展示する建物に相応しく屋根の形状にも日本の伝統様式を取り入れました。屋根は、壁面のコンクリートに合わせてモノトーンで仕上げるために亜鉛めっきステンレスを一文字葺※1きにして、アクセントとして瓦棒※2を取り付けています。雨が流れ落ちやすい切妻造の屋根は、冬に雪が積もりやすい滋賀の気候にも合っており、降雪量が多い日には屋根に積もった雪が水庭に滑り落ちるダイナミックな情景が見られることも！

※1 平板状の屋根材を水平方向に一直線に葺く工法
※2 屋根の傾斜に沿って一定間隔に並べて取り付ける構材



佐川美術館の建築を深掘りするコーナー！今回は本館の屋根を取り上げます。



外側だけじゃない！軒にも注目

軒天井には、壁面に合わせて木目調のコンクリートパネルが張り付けられています。重力に逆らって張り付ける軒天井のパネルには軽さが求められるため、GRC(耐アルカリガラス繊維で補強したセメント)という軽量で強度のあるコンクリートを使用しています。種類の異なるコンクリートを使用しているため、本来であれば軒と壁面の色は微妙に違ってくるはずですが、アクリルシリコンで塗装し色を揃えています。目に見えないこだわりが、統一感のある美しさをつくり出しているのですね！

ココに注目!!

全長 104m!!

